



第2章 都市づくりの基本理念と目標

1 将来都市像

本市は、木曾川の恵みを受けた肥沃な扇状地であり、木曾川沿いの樹林地や市域を南北に流れる五条川、青木川などの豊かな自然を有するまちとなっています。古くは養蚕業で栄え、その後インテリア織物の産地として発展してきました。また、名古屋市への交通利便性が高いことからベッドタウンとしての性格を有し、高度経済成長期には江南団地の誘致などをきっかけとして大きく人口を増やしてきました。

しかし、平成22年をピークに人口が減少に転じ、今後も一層の人口減少・少子高齢化の進展が想定されています。

今後は、人口減少・少子高齢化の動向を的確に捉え、効率的かつ持続可能な都市経営に向けた戦略的なまちづくりの推進が必要となるため、魅力的な市街地、選ばれる住宅地、移動しやすい交通環境及び利便性の高い広域ネットワークを活かした産業の活性化などの実現に向け、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基つき、交通利便性の高い鉄道駅などの拠点を中心とした都市機能と自然環境が調和した機能的なまちづくりの推進をめざします。

2 都市づくりの基本理念

上記の将来都市像を踏まえつつ、第6次江南市総合計画における将来像との整合を図り、以下のように定めます。

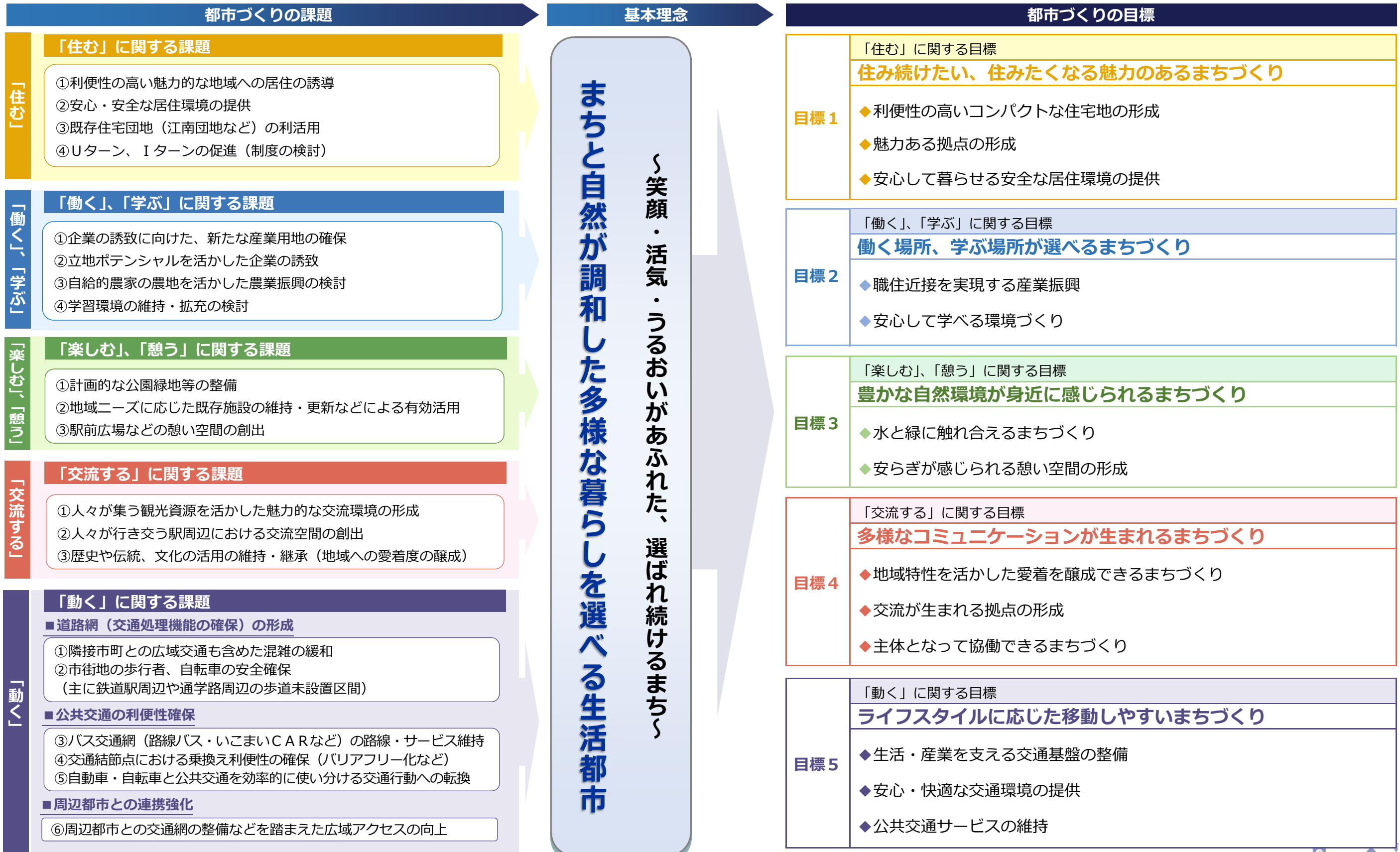
まちと自然が調和した多様な暮らしを選べる生活都市
～笑顔・活気・うるおいがあふれた、選ばれ続けるまち～





3 都市づくりの目標

第1章で整理した都市づくりの課題をもとに、都市づくりの基本理念の実現をめざすための具体的な都市づくりの目標を以下に示します。





前述した都市づくりの目標について、具体的な方針を示します。

目標 1

「住む」に関する目標

住み続けたい、住みたくなる魅力のあるまちづくり

◆ **利便性の高いコンパクトな住宅地の形成**

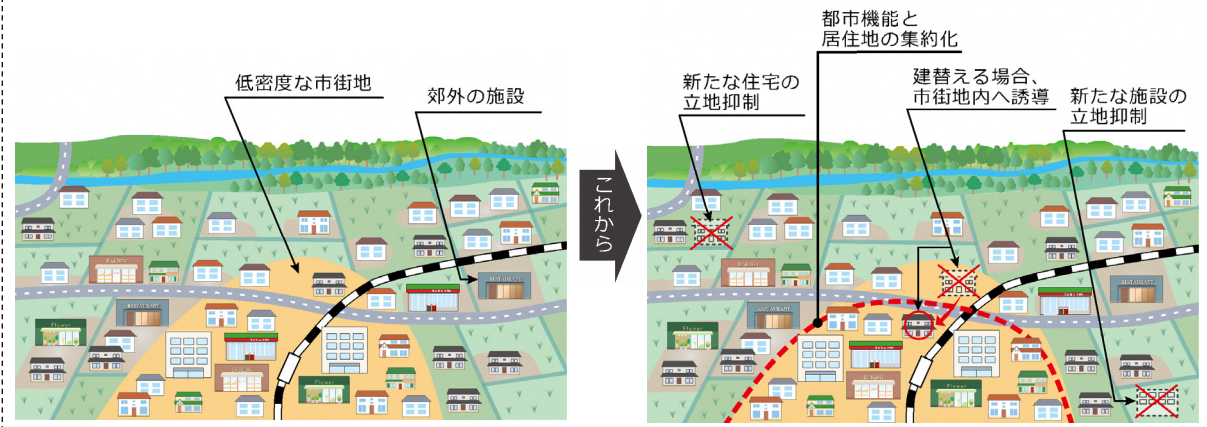
本市では、少子高齢化・人口減少の進展に加えて、市街化調整区域へ拡散していく住宅開発などが進んでいる中、人口密度の低下、空き家・空き地の増加などが懸念されるとともに、その影響により生活サービス施設の撤退などによる既存市街地の魅力の低下が懸念されています。

そのため、利便性の高い地域における低未利用地の活用促進や住宅団地の利活用などにより、人が住む場所を一定の地域に誘導することで人口密度を維持し、都市のスポンジ化※を抑制し、利便性が確保された住宅地の形成・維持を図ります。



住み続けたい、住みたくなる魅力のあるまちづくりのイメージ

利便性の高いコンパクトな住宅地のイメージ



◆魅力ある拠点の形成

通勤・通学流動で流入が多い特性を有する本市が、居住地として選びたくなる都市となるためには、交通拠点である市民や来訪者が日常的に利用する鉄道駅周辺が、魅力的な拠点となることが必要となります。

江南駅周辺は、行政施設や金融施設などが集積する日常生活の拠点となっていることから、市内各地からのアクセスの良さを活かした魅力ある拠点形成のため、日常生活に必要な都市機能の誘導や駅までの交通手段の維持・充実など魅力ある中心市街地の再構築を図ります。

布袋駅周辺については、施行中の鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、既存資源などの活用や新たな魅力づくりによって南部の拠点としての魅力と活気の創出を図ります。

また、本市は広域的な移動利便性が高く住宅地としても高いポテンシャルを有することから、持続可能なまちづくりを推進するため、子育て世代をはじめとした新たな市民の居住促進を図ります。

一方で、交通の中心的な拠点となる鉄道駅周辺だけでなく、日常生活において中心的な機能を有する地域について利便性を確保することが必要となります。

そのため、それら地域周辺については日常生活に密着した施設やスポーツ施設などの娯楽施設等の維持確保を図るほか、江南団地などの住宅団地周辺については、周辺住民の日常生活を支えるために必要となる都市施設の整備・改善を図り、居住環境の充実に努めます。

◆安心して暮らせる安全な居住環境の提供

本市は、地震による津波の心配が少なく、地震災害に対して比較的強い地域性を有している一方で、日中の人口流動が多い特性を有していることから、発災時に発生が懸念される帰宅困難者への対応が必要となってきます。そのほか、近年、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害の軽減に向けた対応も必要となります。

そのため、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を促進するほか、発災時に適切な避難行動が可能となる体制の構築をめざします。

目標 2

「働く」、「学ぶ」に関する目標

働く場所、学ぶ場所が選べるまちづくり

◆職住近接を実現する産業振興

本市の活力となる雇用の場の創出のため、交通アクセスに優れた特性を活かし、新たな企業の誘致、市内事業者への支援、事業用地周辺の基盤整備などにより、働き方を選択できる産業振興を図ります。

また、本市の農業は、自給的農家が大半を占め、後継者不足など不安定な営農状況にあることから、市民菜園や地場産品の特産化など、農地の活用や営農環境の改善をめざします。



産業軸である(都)愛岐大橋線周辺に位置する和田工業団地



◆安心して学べる環境づくり

人口の転出超過による社会減の抑制だけでなく、人口の自然増を促進するためにも安心して子育てできる環境の提供が重要となります。

そのため、子育て支援施設や教育施設の充実及び通学環境の安全性を確保するほか、子どもだけでなく多様な世代が学習できる環境の創出をめざします。

目標3

「楽しむ」、「憩う」に関する目標

豊かな自然環境が身近に感じられるまちづくり

◆水と緑に触れ合えるまちづくり

公園緑地等、社寺林、農地といった緑や、木曽川に代表される水面は、生活にうるおいを与えてくれる身近な自然環境となっています。

そのため、利用者ニーズに応じた親水空間の創出、身近な公園緑地等の整備やリニューアル、社寺林・農地の保全など、水と緑に触れ合えるまちづくりをめざします。



木曽川沿いに整備された江南緑地公園（草井）

◆安らぎが感じられる憩い空間の形成

多くの市民が身近に緑と触れ合える環境の提供に向け、多くの人々が集う鉄道駅周辺などの市街地において、緑が感じられる憩い空間の創出を図ります。



江南駅前広場の緑が感じられる憩い空間



目標 4

「交流する」に関する目標

多様なコミュニケーションが生まれるまちづくり

◆ 地域特性を活かした愛着を醸成できるまちづくり

本市には、フラワーパーク江南などの観光資源や織田信長などにゆかりのある社寺・史跡などの歴史文化資源が点在しているほか、江南藤まつりなどの地域に根づく「祭り」は、市民が地域に愛着を感じる機会を与えることに繋がります。

これらの資源を維持・活用し、市民や来訪者が本市の魅力を体感し、愛着を醸成できるまちづくりをめざします。



多くの市民や来訪者でにぎわう江南藤まつり（曼陀羅寺公園）

◆ 交流が生まれる拠点の形成

市民や来訪者が日常的に利用する鉄道駅周辺は、多くの人々が行き交う空間であることから、既存の交通機能に人々が集いたくなる魅力的な交流空間を生み出し、拠点に新たな活気の創出をめざします。



新たな交流空間となる布袋駅西側駅前広場のイメージ

◆ 主体となって協働できるまちづくり

地域コミュニティの維持・活性化や交流空間の創出などにより、地域ごとに異なる特性をもつ課題に対して、市民や事業者、行政が連携して主体的に取り組めるまちづくりをめざします。



目標5

「動く」に関する目標

ライフスタイルに応じた移動しやすいまちづくり

◆生活・産業を支える交通基盤の整備

本市は、通勤・通学や買い物、物流など周辺都市との結びつきが強いことから、市内及び市内外を結ぶ移動手段の確保が重要となっています。

多様な移動を円滑にするために重要となる、本市と周辺都市を結ぶ幹線道路の整備など、交通基盤の充実を図ります。



鉄道高架下を通過する(都)布袋駅線のイメージ

◆安心・快適な交通環境の提供

人々が生活するうえで、便利で安全に移動できる環境を確保することは、『選ばれ続けるまち』を実現するうえでも重要な要素となります。

通学路や鉄道駅及び主要施設周辺における安全な歩行環境を確保するほか、気軽に市内を回遊できる安全で快適な自転車走行環境の創出をめざします。

また、本市は通勤・通学の流動が多い特徴を有することから、多くの人が行き交う鉄道駅周辺については、利便性の高い乗換え環境などの確保に向けた交通基盤の充実を図ります。

◆公共交通サービスの維持

今後想定される高齢化の進展に伴い、自動車を運転できない市民の増加が懸念されます。また、中心部のにぎわい創出に向けても、気軽に行き来できる利便性の高い交通環境の提供が重要となります。

そのため、居住地と行きたい施設を効率的に移動できる、ニーズに応じた公共交通サービスの維持確保をめざします。

また、市民が多様な移動手段を選択できる公共交通サービスの維持・確保に向け、公共交通の利用促進に向けた市民への意識啓発を図ります。



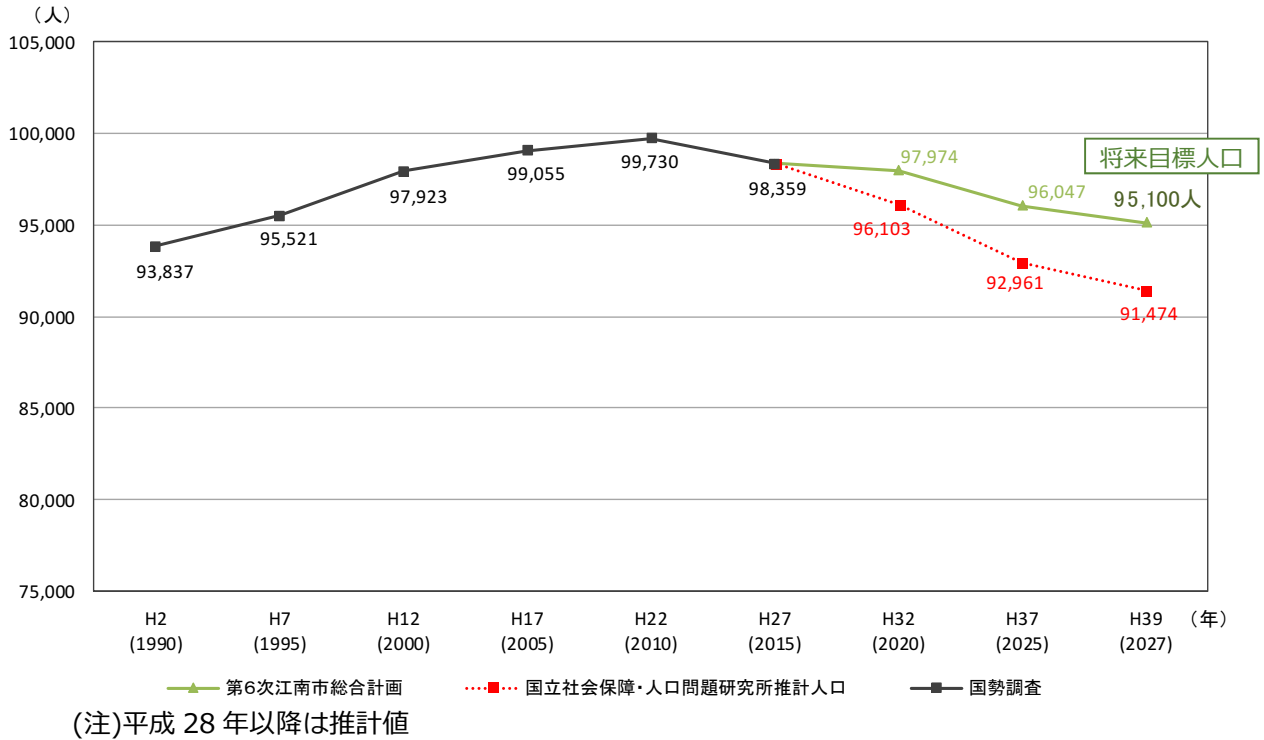
鉄道・路線バスなどの公共交通が整備された江南駅



4 将来目標人口

本市の平成 39 年度（2027 年度）における将来目標人口は、平成 27 年現在の人口が 98,359 人となっている中、将来的に人口減少が続くことが見込まれることから、第 6 次江南市総合計画における将来目標人口を踏まえ、本計画の目標人口を以下のように設定します。

将来目標人口 95,100 人（平成 39 年度：2027 年度）



資料：実績値（国勢調査）

推計値（第 6 次江南市総合計画、国立社会保障・人口問題研究所）

■江南市の人口の推移と将来目標人口



5 将来都市構造

将来都市像の実現には、市民や来訪者にとって利便性と魅力を提供できる都市機能の集積・維持を図る鉄道駅を中心とした中心拠点や、日常生活において中心的な施設を有する地域などを位置づけた地域拠点を明確化するとともに、中心拠点及び地域拠点及び周辺都市とを有機的に結ぶ都市軸を明確化し、必要となる土地利用や都市施設などを配置していくことが重要となります。

このため、本市の拠点及び都市軸などを以下のように設定します。

(1) 拠点（エリア）の形成

本市の拠点は、都市機能の集積した中心拠点及び地域や日常生活の拠点となる地域拠点のほか、余暇や観光機能の充実を図るレクリエーションエリアで構成します。

さらに、中心拠点と地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結ぶことにより、住みやすく、利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざします。

1) 中心拠点

中心拠点は、これまでも本市の中心地として機能してきた江南駅周辺のほか、市の南玄関である布袋駅周辺を位置づけます。

江南駅周辺は、居住・商業・業務施設や交通施設などの充実を図ります。また、布袋駅周辺は、鉄道高架化事業にあわせた都市施設の整備・改善を図るとともに、地域資源※を活かした居住環境の充実を図ります。

2) 地域拠点

地域拠点は、江南厚生病院や江南市スポーツプラザをはじめとした生活に密着した施設が集積した地域と、一団の住宅基盤が整った江南団地、団地周辺の生活利便施設及び観光名所である曼陀羅寺公園などが集積した地域を位置づけ、周辺住民の日常生活を支えるために必要となる都市施設の整備・改善を図るとともに、居住環境の充実を図ります。

3) レクリエーションエリア

レクリエーションエリアは、フラワーパーク江南、蘇南公園、江南市スポーツプラザ、曼陀羅寺公園、中央公園、久昌寺公園の周辺を位置づけ、施設の充実や整備を図ります。

(2) 都市軸の形成

1) 生活軸

通勤・通学などを支える生活軸は、名古屋方面・岐阜方面とつながる路線として(都)名古屋江南線及び(都)江南岩倉線を、一宮方面、犬山・小牧方面とつながる路線として(県)浅井犬山線及び(都)一宮犬山線を位置づけます。

また、拠点と木曽川沿いの地域をつなぐ路線として、(都)宮田線、(都)名古屋江南線、(都)江南岩倉線を位置づけます。

2) 産業軸

本市南部を東西方向に横断している(都)北尾張中央道を、本市と一宮市、国道41号及び東名・名神高速道路の小牧インターチェンジとを結ぶ路線として、東西の産業軸と位置づけます。



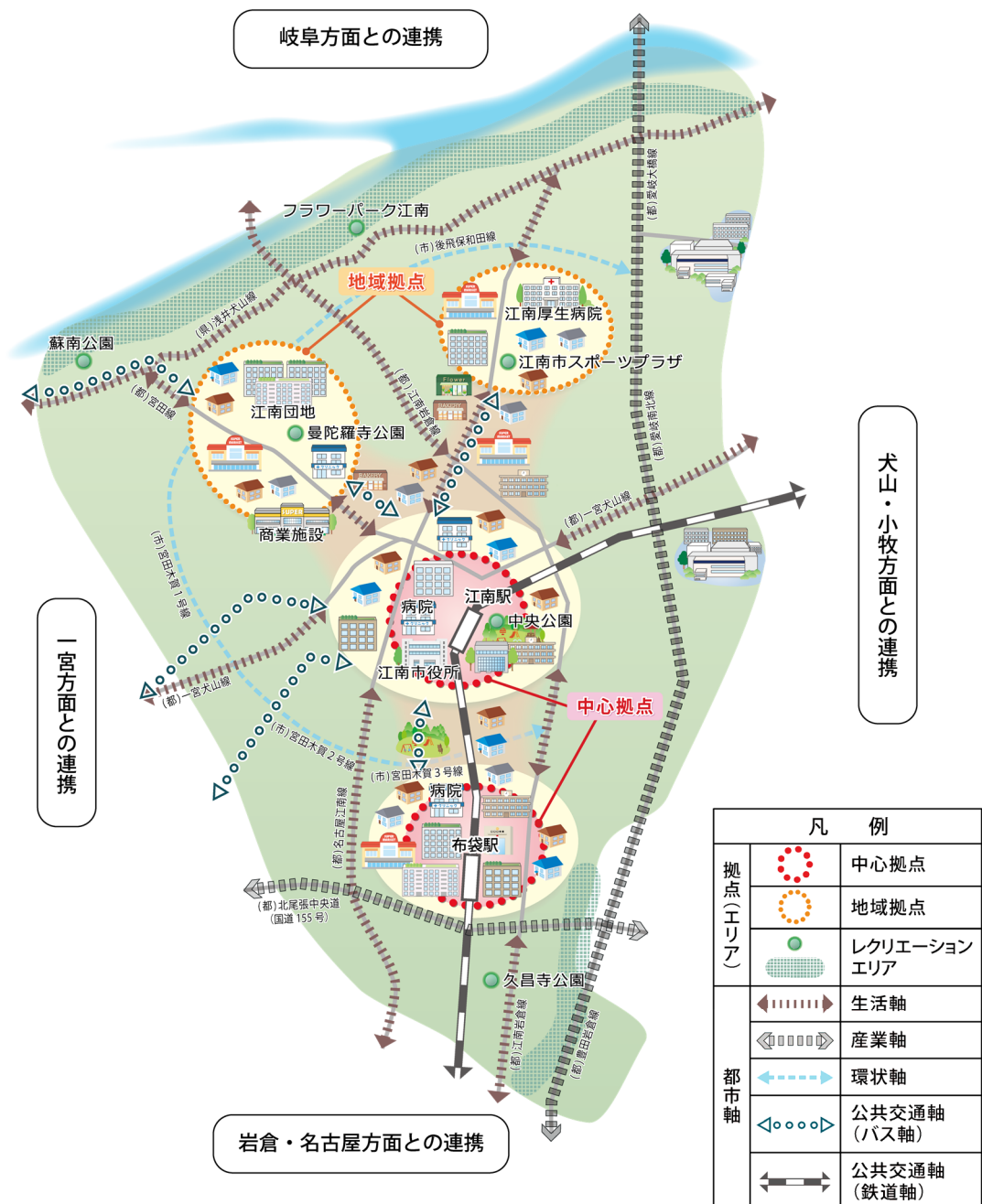
また、本市東部を南北方向に縦断している(都)愛岐大橋線、(都)愛岐南北線及び(都)豊田岩倉線は、岐阜方面（各務原市、関市、美濃市など）と、名古屋方面や東名・名神高速道路の小牧インターチェンジを結ぶ路線として、南北の産業軸と位置づけます。

3) 環状軸

本市の都市計画道路は、中心拠点を中心に放射状に広がっていることから、その都市計画道路を有機的に結び、市街地の交通環境の向上を図ることなどを目的として、(市)後飛保和田線等を環状軸と位置づけます。

4) 公共交通軸（バス軸・鉄道軸）

自動車以外の交通手段でも主要施設や広域的な交通拠点となる鉄道駅まで安心して移動できる交通環境の確保に向け、中心拠点・地域拠点と周辺都市を結ぶバス路線をバス軸として位置づけます。また、名古屋方面などの広域的な移動手段の確保に向け、名鉄犬山線を鉄道軸として位置づけます。



岐阜方面との連携

犬山・小牧方面との連携

一宮方面との連携

岩倉・名古屋方面との連携

凡 例	
拠点(エリア)	中心拠点
	地域拠点
	レクリエーションエリア
都市軸	生活軸
	産業軸
	環状軸
	公共交通軸(バス軸)
	公共交通軸(鉄道軸)

■ 拠点配置と都市軸の形成イメージ



(3) 土地利用の配置

◆住宅ゾーン

中心拠点・地域拠点周辺に配置し、利便性の高い住宅系の土地利用を図ります。

◆商業ゾーン

鉄道駅周辺に配置し、交通結節点の機能を活かした商業系の土地利用を図ります。

◆工業ゾーン

産業軸沿道や市街地の外周部に配置し、産業振興に向けた効率的な土地利用を図るとともに、市街地における住宅地と工業地の混在を抑制する土地利用を図ります。

◆田園集落ゾーン

市街地の周辺に位置し、農地と既存集落が共生した土地利用の保全に努めます。

◆水と緑のゾーン

木曽川沿いに位置し、水と緑に包まれた自然環境の形成に努めます。

◆暮らしと安全のゾーン

暮らしと安全のために必要な公共公益施設用地として活用します。

(4) 市街地規模の考え方

1) 住宅地

住宅地は、現在の市街化区域内にある低・未利用地の有効活用を促進するとともに、計画的に市街地整備を進めている布袋駅周辺については、効果的な土地利用に向け、新たな住居系用途地域を位置づけます。

2) 商業地

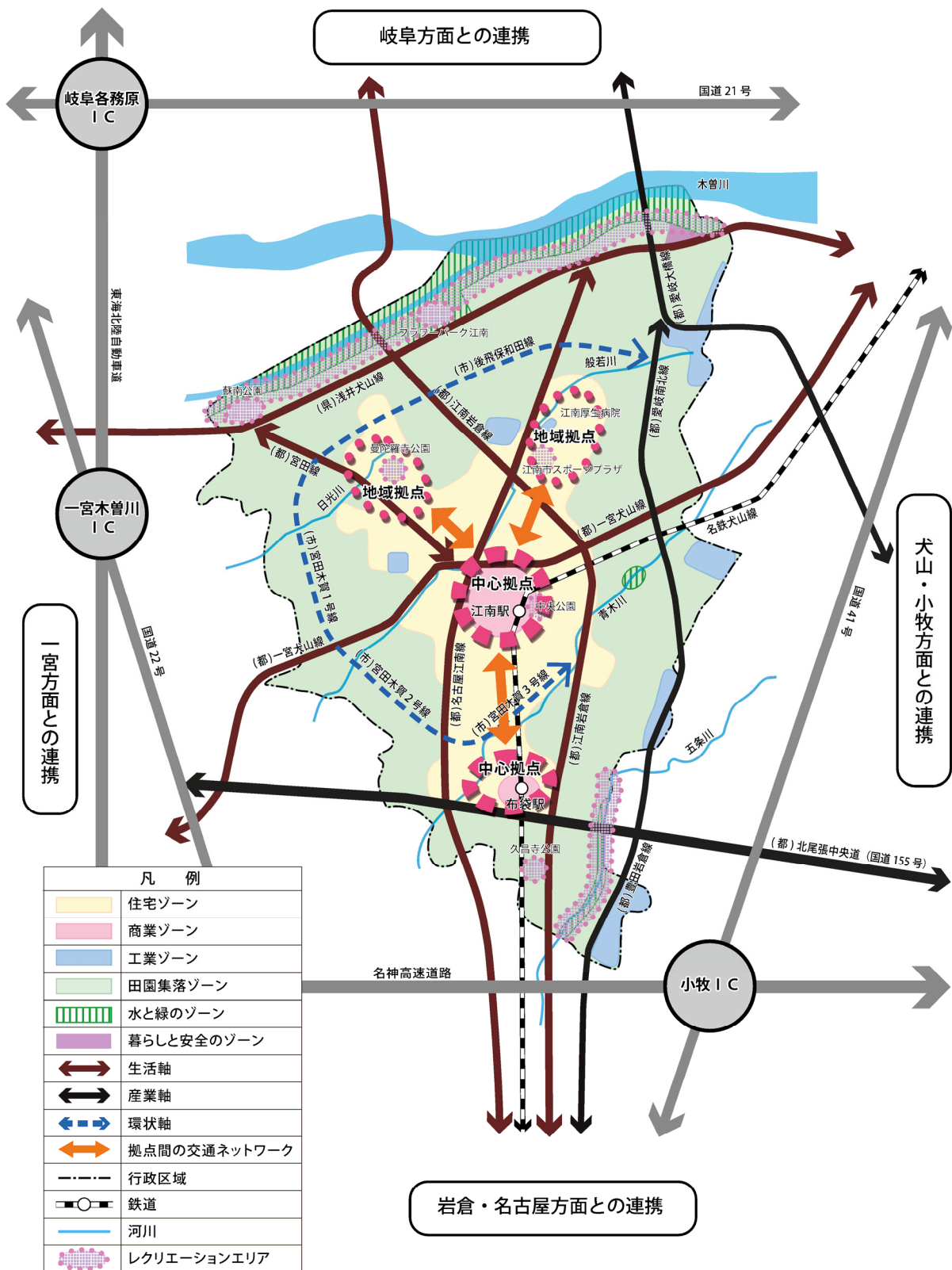
商業地は、現在の商業用地の規模を維持することを基本とし、計画的に市街地整備を進めている布袋駅周辺については、効果的な土地利用に向け、新たな商業系用途地域を位置づけます。

3) 工業地

工業地は、産業軸の沿道を中心に工業地を配置します。また、周辺環境と調和して、新たな工業地を位置づけます。

以上を踏まえ、本市の将来の都市構造を次頁の図のとおり設定します。





■ 将来都市構造図